

サイド ダッシングマフラー JB64/JB74 取扱説明書

この度は商品をご注文いただきありがとうございます。取り付けする前にこちらの取扱説明書を必ずお読みいただき、内容をよく理解して正しく製品をご使用ください。

商品内容

番号	名称	略図	数量
①	マフラー本体(中間パイプ&テールパイプ)		1
②	ガスケット		1
③	マフラーハンガーブラケット		1

番号	名称	略図	数量
④	φ10マフラーハンガー	-	2
⑤	φ12マフラーハンガー	-	1
⑥	ボルト&ナットセット M10x25	-	1
⑦	ボルト&ナットセット M10x35	-	2

適合車種

ジムニー JB64/ジムニーシエラ JB74

⚠️ 取り付け前の注意事項

- ・マフラーの取付には専門技術と経験が必要です。
安全のため、設備の整った自動車整備工場または、販売店に依頼・相談してください。
- ・マフラーを取り付ける際に、必ず安全な場所に車を完全に停止させたことを確認してから作業をおこなってください。
また、停止させてすぐの作業を行いますと、エンジン消音器、そのまわりが高温になっておりますので、作業は低温になったことを十分確認してからおこなってください。怪我・やけどなどの原因になります。
- ・マフラーを取り付ける際にガレージジャッキを使用する場合はリジットラック、うま(安全スタンド)を併用して作業してください。
車載ジャッキでの作業は危険ですので絶対におやめください。
- ・マフラーを指定の取付位置以外での取り付けはしないでください。
誤った位置への取り付けを行いますと落下や故障だけでなく、交通事故やけがなどの原因になります。
- ・マフラーの取り付けにおいて、取り付け方法が分からない場合や不良品での無理な取り付けはしないでください。
取り付けの際の怪我や、交通事故などの原因になります。
- ・マフラーを取り付ける際は、過大な力を加えたり、物をぶついたりしないでください。
故障の原因になることがあります。

⚠️ 警告

作業中のやけど・怪我に注意

取り付け要領

1 純正マフラーの取り外し

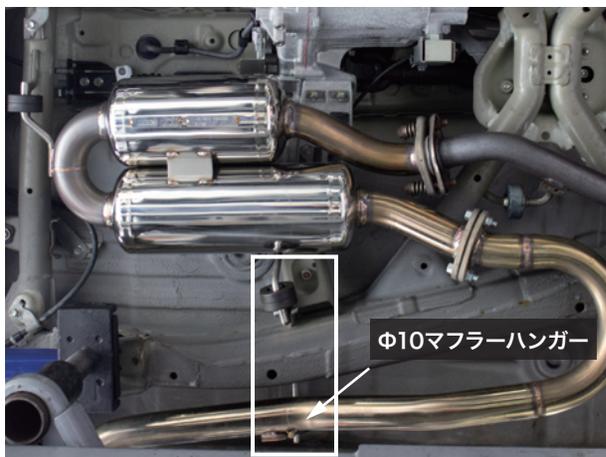
- ① ナット2個、マフラーハンガー2箇所を取り外し、純正マフラーのリアピースを車体から取り外してください。
 - ② スプリングと共締めされているボルト2本、マフラーハンガー1箇所を取り外し、純正マフラーのセンターピースを車体から取り外してください。取り外した純正ガスケット、スプリング、ボルトは再利用しますので大切に保管してください。
- POINT** 本マフラーの取付は自動車メーカーの作業手順と基本的には同様になります。メーカー発行のサービスマニュアルを確認して作業をおこなってください。

2 ブラケットの取り付け

- ① 下記の図を参考に付属のマフラーハンガーブラケットを車両に取り付けます。マフラーハンガーブラケットをフレームと車体の間に挿入して、ボルトで固定する前に付属のΦ10マフラーハンガーをマフラーハンガーブラケットに取り付けます。

POINT マフラーハンガーブラケットの向きに注意して取り付けをおこなってください。

- ② 車両の穴を利用して付属のボルト&ナットセットM10x25でブラケットを固定します。この時ボルトは仮締めとします。



マフラーハンガーブラケット装着位置



マフラーハンガーブラケット装着向き

- 注意** 3型以降の車両ではテール側のステーが出る位置の車体上面に下記図のカバーが装着されています。ブラケットとカバーとの干渉を防ぐため、カバーの取り外しまたはカバーの一部にカット加工をして、後ろ側カバーを取り外してマフラーハンガーブラケットを取り付けてください。



純正カバー

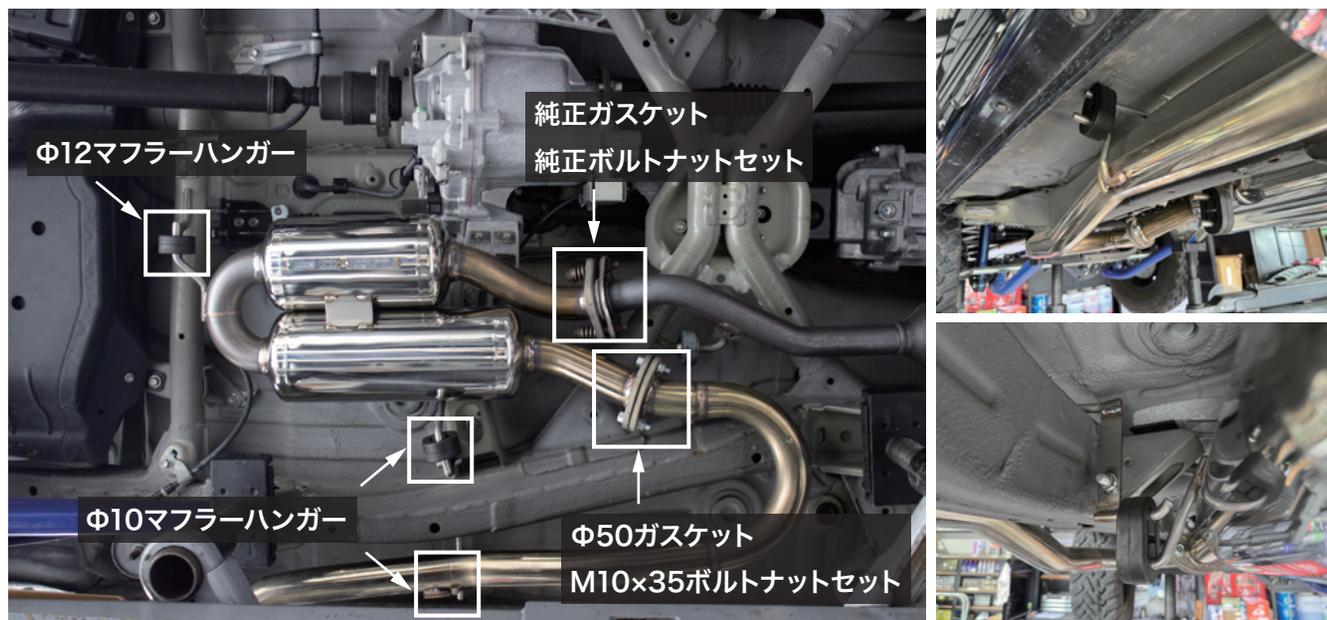


一部カットと取り外し

3 本製品の取り付け

①下の図を参考に本製品を車体へ取り付けてください。この時各ボルトは全て仮締めとします。

POINT 一部ガスケットとボルトは純正を再利用します。



②マフラー本体とクロスメンバーおよびその他周辺部品、車体との干渉がなく、クリアランスが確保できていることを確認してください。

③車両前方からマフラーのエンドに向けた順番に各ボルトを本締めしてください。

POINT フランジ固定締め付けトルク(フロントパイプ→中間パイプ):50Nm
フランジ固定締め付けトルク(中間パイプ→テールパイプ):50Nm

注意 JB64にご装着いただく場合、車体最外側に対しマフラーエンドが数mm内側に入る設計となっております。取り付け誤差によってはマフラーエンド部分が車体最外側からのはみ出しが発生する可能性がありますので付属のマフラーハンガーブラケットはできるだけ車体の内側になる位置で固定してください。
※マフラーエンドがはみ出している場合、車検不適合になりますのでご注意ください。

④各ボルトの本締め後に再度マフラー本体とクロスメンバーおよびその他周辺部品、車体との干渉がなく、クリアランスが確保できていることを確認してください。

4 最終チェック

①取付けたマフラーを手で軽く揺さぶり、異音・クリアランスを確認してください。

注意 左右方向には動きやすくなっており、力を入れて揺さぶった場合車体との干渉が発生しますが、正常な状態となります。

②エンジンを始動して暖気運転をして、約2,500回転で各フランジからの排気漏れ・各部の点検をしてください。エンジンを始動した状態で車体との干渉がないことを確認して作業終了です。



ブラック塗装マフラーの取り扱いについて

ブラックマフラーの塗装は熱強度、耐久性が高い塗料を使用して、塗装品質にも十分に配慮しておりますが、使用状況により剥がれる場合がございます。

当製品を装着した直後のエンジン始動はアイドリングで5分～10分程度徐々に熱を加え、その後一度自然冷却してください。エンジン回転数を上げ急激な熱を加えると塗装の耐久性を損ねる原因になります。

当製品装着直後の走行の際も急激なエンジン回転数の上昇を避け、適度な慣らし運転をおこなってください。

上記の初期熱入れ作業により良好な塗装状態を維持することが可能ですが、使用状況によっては初期熱入れ作業をおこなった場合でも塗装が剥がれる場合がございますのをご了承願います。

以上の内容を十分にご理解いただき、ご使用をお願いいたします。

⚠ 取扱い注意事項

- ステンレス、ブラックカラー共に本体に指紋や油分が残ったままエンジンを掛けて初期熱入れ作業を行うと焼き付きを起こし汚れがとれなくなる場合がございますので取り付け後本体をよく拭き取ってから熱入れをおこなってください。
- マフラーは純正車両にて最低地上高の保安基準を満たす設計となっております。車高を下げる改造を行った場合、整備不良または路面や駐車場などの突起物に接触して破損したり、接触物を破損することがあります。また破損部分より排気ガスが漏れる可能性があるため車高を著しく下げないようにしてください。
- 自動車の消音器関係は、正しい取り扱いをしても、自動車の使用状況や排気ガスの有害成分で消音機能が劣化したり、腐食して穴が開くことがあります。このような場合は速やかに販売店や整備工場にご相談頂き、製品本来の性能が失われている場合は、弊社の製品と交換してください。また腐食や劣化を放置すると排気ガスが車体の下部に漏れて火災の危険があると共に、整備不良運行で運転者様が罰せられることがあります。
- 自動車の消音器関係は、長時間のアイドリングまたは走行をすると大変熱くなります。燃えやすい物の上や枯葉などの上にエンジンをかけたままにしたり、停車や駐車を致しますと火災の危険があります。必ず自動車の下に燃えやすい物が無いか十分に確認してから停車してください。
- エンジンをかけたまま休憩や仮眠をすると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険があります。その場合は必ずエンジンを停止してください。また換気をこまめに行ってください。
- 排気ガスの中には有害な成分が含まれています。締め切った車庫や倉庫などでエンジンをかけ続けると一酸化炭素中毒の恐れがあります。必ずエンジンの停止、または換気をしてください。
- マフラーのテールパイプからは有害な排気ガスが排出されます。停車中又は駐車中にテールパイプ付近に人（特に幼児）やペットがいてエンジンをかけ続けると一酸化炭素中毒の恐れがあります。必ずエンジンを停止してください。また風向きにも十分注意してください。
- エキゾーストマニホールドや触媒は、特に高温になっておりますので触れないようにしてください。大やけどをする恐れがあります。
- 助手席側からの乗り降りの際に、衣類や持ち物がマフラー出口に触れますと着火したり焦げ、溶けるなどの原因になります。またお子様がお手を触れないよう十分注意していただくとともに、停車や駐車する場合は、その危険が周囲にないかを気を付けてください。
- ご使用の際は、むやみな空ぶかしや長時間にわたるアイドリングはおやめください。消音能力の低下や停滞した排気熱害でエンジンルームの電装品やプラスチック部分など、補器部品が故障・溶けるなどの機能障害が起こる場合があります。
- サーキット走行等の特殊な用途でのご使用では、製品の耐用期間が著しく低下いたします。あらかじめご了承ください。
- この製品はすでに改造されている自動車に適合するものではありません。改造された自動車に装着される場合は法令で定められた改造申請などの届出を行い、検査合格後にご使用ください。またはその場合には自動車や本製品が破損することがあっても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 300～500Km走行後、各部の緩みが無い点検し、増締めをして下さい。